

会 議 概 要 報 告 書

会議の名称	第 2 回 第 6 次総合計画後期基本計画市民会議
開催日時	平成 23 年 7 月 9 日（土） 13 時 30 分から 15 時 50 分
開催場所	大月市役所 3 階委員会室
出席者	中村議長、山田副議長、星野委員、幡島委員、志村委員、天野委員、 佐藤委員、小宮委員、中島委員、石田委員、小川委員、知見委員、 事務局 4 名
会議の次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 議長あいさつ 3. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第 1 回市民会議に関する報告について (2) 第 6 次総合計画後期基本計画（草案）について (3) その他 4. 閉会
会議資料	<p>事前配布資料：第 6 次総合計画後期基本計画（草案）</p> <p>当日配布資料：第 1 回会議概要報告書、 人口減少について、 第 6 次総合計画後期基本計画施策一覧、 第 6 次総合計画後期基本計画市民会議委員からの提案・意見等一 覧</p>
議事	
(1) 第 1 回市民会議に関する報告について	
<p>事務局より第 1 回会議概要報告書を提示し、確認を依頼するとともに、前回会議で説明を求められた人口減少について、パワーポイントを用いて説明を行った。</p> <p>会議概要報告書の件については了承され、人口減少に関しては下記のような提案があり、事務局が転入転出者に実施しているアンケート結果を調査し、次回報告することとなった。</p> <p>提案：大月市のこの 5 年の人口減少率は、県内でも際立っている。自然減少はどの自治体も大差ないと思われ、社会減少の特に県内他市町村間の流入の差に注目すべきと考える。大月市に住んでいて郡内地域で働いている人が市外へ行ってしまっているという現状を調べる必要がある。</p>	
(2) 第 6 次総合計画後期基本計画（草案）について	
<p>事務局から後期基本計画草案策定経過及びその概要について、資料「第 6 次総合計画後期基本計画施策一覧」などを用い後期基本計画の体系を簡略に説明するとともに、指標については、前期基本計画の指標のうち目標値が達成されたもの、数値の把握が困難なもの、制度が変わって数値が表せないものなどを見直し、加除していることなどについて説明を行った。今後の流れとして、市民会議からの意見・提案等を市民会議からの提言書といった形で遅くとも 9 月初旬までに市に提出していただき、その提言書をもとに庁内の策定委員会で後期基本計画（草案）を修正し</p>	

て後期基本計画（素案）を作成する。その素案に対してパブリックコメントを実施するとともに総合計画審議会に諮問し、パブリックコメントの結果及び審議会からの答申を受けて、庁内で最終調整して後期基本計画を作成するといった説明を行った。

事務局から会議の進行について、時間的な制約もあるので、会議の席上では後期基本計画（草案）の基本目標 1-1 から 1-5 を中心に意見交換をしていただき、今日の会議では、事前に委員から提出されている意見・提案等以外にこのようにした方が良いなどといった意見・提案を出し合っていたきたい旨を提案した。

委員からは「市民会議であるのであまり行政の意見を聞かないで、我々の進めやすい方法で進めたらどうか。」、「この市民会議では、一つ一つにこだわらず、市民として、目玉として是非これはやって欲しいというものについて合意形成した方が良いと思う。細部を見るといっても限りなくあり、時間がなくて、細部の議論に多くの時間を費やすことはいかかかと思う。」などという意見がある中、後期基本計画（草案）全体に対する提案・意見については、事務局が次の会議でその提案・意見に対して何らかの回答を用意することとし、基本目標 1-1 から順に、事前提出のあった意見・提案等も含め、各委員で提案や意見、疑問に思ったところをそれぞれ出し合う形で進めることとなった。

事務局では、提案・意見に対する対応がまとめ次第、次回以降の会議で順次報告するとともに提案・意見等を取りまとめて提言書案を作成することとなった。

基本目標 1-1 に関する意見・提案等

【協働の推進について】

○ 前期5カ年の最大の目標は信頼と協働であった。しかし、以前は地域協働推進室が設置されていたが、現在はなくなっている。協働が本当の実行力のあるものになっていない。

「協働」と言いながらも「協働」という定義がはっきり示されていない。「協働」とは何かというものと、協働の枠組み的なものを明確にしないと前期と同様に後期5年も終わってしまう。

前期基本計画では、「市民の権利および責務、市議会および行政の責務が明文化された条例をつくり、市民のまちづくりへの参加をやすくする」と謳っており、さらに具体的に言うと「自治基本条例の検討」と謳っているが進んでいない。自治基本条例の制定が難しいのであれば、例えば「協働とは、市民、議会、市長の三者の権利・責務が対等に保持され、英知を集め、役割を分担し、それぞれの責任を果たし、協力すること」などと、きちっと定義化するなど、最低限のことが必要である。

その具体的なものとして、何らか推進組織的な枠組みが無いと実際は進まない。その組織には、市民活動のサポート、まちづくりに関する市民参加の窓口、協働事業の推進、市民活動および協働事業の情報センターなどの機能が必要であり、このようなイメージの推進組織、現在市役所にある課別の仕事を越えて市民との協働を横断的に進めるような、何かそんな枠組みが必要であると考えている。

○ 1-1 が非常に重要であると考え。1-1 で前期とは違うんだというものを市民が分かる格好で出すことが一番のポイントだと思う。新聞報道で南アルプス市の協働に関する取り組みの記事が掲載されていたが、南アルプス市では、市民との協働事業に関するコンペを行っている。コンペの結果、協働事業に相応しい事業に 1000 万円、2000 万円と予算措置している。そのことによって、やる気のある市民の心を引っ張っている。例えばこのようなイメージで

<p>あるが、何か前期と違う協働のやる気を示すといったものを是非ポイントとして欲しい 《市民会議でのまとめ》 協働の基本が示されたような条例などの制定を強い意見として提案してく。</p>
<p>【施策「広報おおつきの発行」】</p> <p>○ 主な広報活動は広報おおつきの発行がメインとなっていると思うが、広報活動の満足度が平成 17 年と比較して平成 21 年では下がっているという現状であるが、ではこの3年間は何をしてきたのかということになる。</p>
<p>【施策「ホームページの充実」】</p> <p>○ ホームページを市民と行政の間の大きな位置づけにして、これにお金をかけて益々充実させていくとしているが、ホームページは費用がかかっている割に市民は見えていない。パソコンを持っていない、インターネットを使えない、ホームページを開いたとしてもどこに必要な情報があるか分からないという人が多くいる。そのような現状でもホームページ重視ということであれば、パソコンをできるような市民をつくるしかない。そういう要望も実は多い。身近な公民館や分館にパソコンが置いてあり、いつでも触れる状態にして、ボランティアで高校生や短大生が高齢者に教えてあげるなどといった環境をつくる必要があるのではないか。</p> <p>○ ホームページの指標について、平成 17 年でアクセス件数が 330 件であり、平成 21 年が 500 件で目標値は達成しているが、ホームページを見ている人が少ないという委員の話からすると、平成 28 年の目標値 600 件という目標値でよいのか。</p> <p>《市民会議でのまとめ》 魅力あるホームページをつくるということがこれからは必要である。 分館が常時開いているものではないので、運用上難しいと思われる。しかしながら、市民にパソコン利用を普及するという事は良いことである。市の予算も考慮して検討を願う。</p>
<p>【施策「市政情報の積極的な公開」】</p> <p>○ 「市政がガラス張りで見えている」という目標は達成されていないが指標がなくなっている。目標は達成されていないため、指標を設けるべきではないか。</p>
<p>【施策「パブリックコメントの実施」】</p> <p>○ 指標について、目標値が 1 件/年となっているが、年に 1 件やれば良いというものではない。他の市町村でも実施しているところもあると思うので、それらの意見を受け付けた件数などを参考に指標とするのもよいと思う。</p>
<p>基本目標 1-2 に関する意見・提案等</p>
<p>【目指す姿「自然環境を大切に作る気持ちが高まっている」】</p> <p>○ 指標が「桂川流域環境保全活動の実施回数」しかないため、何か違った方面の指標も追加したほうが良い。</p>
<p>【施策「地域間交流の推進」】</p> <p>○ 指標として「農業体験教室」、「森づくり体験教室」が設定されているが、「農業」と「森づくり」に限定せず、例えば「自然体験教室」などにしたらどうか。これだけの自然を持っている市なのでそれを利用すべきである。広い意味で自然体験教室というものは、都内の人達からのニーズも今後は増えると思う。指標を検証するために限定をするというのであれば、農業、森づくりの指標だけであればそれだけ実施すれば良いということになりかねないので、何らかの指標を付け加えればよい。また、市民団体との連携であるとか桂川ウェルネスパーク等の自</p>

然を生かした有効活用などについても、できるのであれば指標を出して行かないとなかなかそれを実施していくのは難しいのではないかと思う。

- こういったものこそ委員の意見のとおり指標を設定しないと、やらなくても同じだということと置いてきぼりを食うような施策である。
- 例えば、各地域、例えばおつけだんごの会なども入るが、各団体・組織どうしの交流だとか、大月市とその団体との交流というものがうまくなされていない状況があるのではないかと考えている。例えば何かを実施しようとしてもうひと越え何かできないかなどというときに、市の力を借りたい、相談したい人が欲しいという場合がある。そのようなためにも、各地域の組織や団体のコーディネーターというか窓口になるような人を置いていただければ団体の活動がやり易くなると思う。おつけだんごの会もそうであるが、地域の祭典委員などを担っている者たちは皆が働き盛りであり、皆が集って相談するにも夜遅い時間になってしまい時間も限られ、なかなか前に進まないときがある。もう少し深く踏み込んで行きたいが、本業があるのでなかなかうまくできない部分がある。その辺りをサポートしてくれる窓口があればと思う。

【目指す姿「おおつきブランドによる来てみたくなるまちづくり」】

- 甲府市の行政も一生懸命取り組んだ鳥もつ隊というのがあったが、大月のおつけだんごなどは、行政の応援と言ったら変であるが、そのようなことを記述したらどうか。
- おつけだんごの会が手弁当で一切の支援もなく、働いている世代なので苦勞しながら取り組んでいる。市に協働という形でできないかと何回も言っているが、とにかくこのようなことは、NPO的な皆さんが頑張ることだと回答を受ける。大月市を良くしようと何かを行っている団体がいくつもあるが、公平に取捨選択しながら市と一緒に取り組むというものをいくつか決めるべきだと思う。
- おつけだんごの会は商工会青年部で立ち上げた。B級グルメグランプリなどにも参加したが、結構個人の持ち出しが多い。個人の所有物を貸し出したり、仕事も休んで行っている状況であるが、それは別に良いと思っている。市役所の職員が手伝ってくれるとかどうのこうのではなく、自分たちは自分たちでやろうと思っていることなのでいいのだが、たまたま鳥もつ隊は甲府市の中で立ち上げてしまったものだから、そのように見られがちなどころがある。

【施策「郷土資料館の充実」】

- 指標として来館者数があるが、先ほどの広報の話と同じで、目標が4,000人であったのに、結果は基準値から下がっている。何故こうなったのか。目標値が3,000人であるが、3,000人達成に向けてどのようなことをするのかということはこの場では言わないが聞きたい。
- 同じ内容になってしまうが、郷土資料館の来館者数が減っているということ、何が理由でということ、ではこれから何をすれば来客数が多くなっていくかということなどを具体的に挙げていかなければいけないと思う。館内を見ても何十年と同じ展示物であり、マンネリ化している。その辺で具体的に何を変わるとか、何を置いたら良いとか、何かそのようなことが書いてあれば良いと思う。

【施策「大月駅周辺賑わいづくりの推進」】

- すでに5つの事業を実施することが決まっております、この表現であると今から行うように捉えられるので、その点を修正した方が良いでしょう。

【施策「大月バイパス第2工区の推進」】

- 「早期完成を目指し、地元の理解と協力を求めます。」とあるが、後期5年間協力を求めま

すというよりも、すでに用地買収はかなり進んでいると聞いており、5年後には完成すると思う。文末は「完成を目指します」といったような表現の方が良い

【施策「生活交通の確保」】

- 山梨県内でもデマンドバスとかデマンドタクシーと言われるものの導入が進んでいる。このデマンドバスなどを定期路線バスと並行して走らせ、デマンドバスの利用が増えれば徐々に定期路線バスを減らしていくという方法を取っている。しかしながら、このデマンドバスについては、全国で導入費用や維持費用も嵩むのが難点だと言われていた。しかしながら、新たに次世代デマンドというものが全国に広まりつつある。これは今はやりのクラウドコンピューターシステムにより、大月市にコンピューターシステムを置かず、別の場所で集中管理するというシステムで、このことにより導入コストも維持費用も安く済むといったものである。この導入を検討する必要がある。

基本目標 1-3 に関する意見・提案等

【目指す姿「スポーツ・文化活動の盛んなまちをつくる」】

- 体育施設の使用料が高みすぎて活動ができないという声を聞く。何とか優遇してあげないとスポーツが盛んにならない。改善できるものであれば改善を望む。年間にするとかなりの金額になるので、お金がないからできないということになってしまう。
- 市民会館なども使用料が高いので皆が敬遠しがちである。学校のグラウンドは夜間だけ電気代ということで取っている。

【目指す姿「市内の企業活動が活発になっている」】

- 現在のような景気の悪い状況の中で、市内で商売したり、会社を経営したりという人達に対して、市がバックアップして行くというようなことをしていかないと、市内の業者がどんどん少なくなっていく。市の財政が悪くなればなるほど市内の業者が縮小していくという傾向が今あると思う。市内で商業活動をしている人は、市に税金を落としている。であるから、市内の業者を使うような、勿論やっている部分はあるが、やはり大きい物については、市外へ、安ければよいという傾向が非常に感じられる。とにかく、市が市内業者をバックアップしていかないと市も良くなならないし、市内業者も良くなならない。ということで、市内の企業活動が活発になっているという項目に掲げられた2つの施策以外に何か1つ、市内の商業活動に対して市がバックアップする、市で必要な物はできるだけ市内で調達するなど、もし検討できるのであれば意見として載せていただきたい。

《市民会議まとめ》

「各支援団体の育成・強化」の欄には、経営者意識の高揚や経営相談の充実、研修機会の拡充を図るとの記載もあるが、これらも含めて育成強化、バックアップを積極的にやって欲しい。そうすれば市内に残る業者も増えるし、市の財政も潤う。

(3) その他

- 次回の会議について、7月30日(土)午後1時30分から市役所委員会室で開催することに決定した。
- 市民会議委員の報償について、5年前の市民会議と同様に受け取りを辞退するということが提案され、了承された。
- 事務連絡として、後期基本計画(素案)に対する提案・意見等については、7月20日までに事務局へ提出していただくよう依頼した。